



1 札幌市の現状

(1) 札幌市の障がいのある人（手帳所持者数）の推移

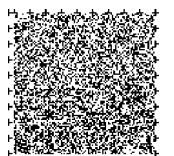
札幌市発行の各種障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）の2016年度末時点での所持者数の合計は、約12万6千人となっています。

【表1】のとおり、2013年度の約12万1千人から、現在までに約5千人増加し、手帳所持者数が伸びていることがわかります。身体障がい者は2015年度から減少傾向にありますが、知的障がい者、精神障がい者は年々増加しており、身体障がい者の減少数を上回っていることから、今後も札幌市の障がいのある人の数は増えていくことが推測されます。

【表1】 各障がい手帳所持者数の推移

（3月末時点、ただし、札幌市の人口のみ4月1日時点。）(人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
札幌市の人口	1,928,932	1,934,649	1,941,127	1,946,407
身体障がい者	84,412	84,221	84,049	83,564
知的障がい者	15,177	15,910	16,666	17,375
精神障がい者	21,419	22,884	23,715	24,788
手帳所持者全体	121,008	123,015	124,430	125,727



(2)障がい別の状況

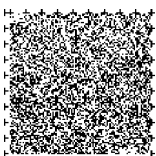
◆身体障害者手帳

【表2】によると、手帳所持者数は肢体不自由が最も多く、次いで内部障がいとなっています。

また、【表3】のとおり、全体の約7割を占める65歳以上の所持者数が、増加していることがわかります。

【表2】 身体障害者手帳の障がい状況別推移 (3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
視覚障がい	4,540	4,534	4,480	4,424
聴覚・平衡機能障がい	5,296	5,302	5,288	5,278
音声・言語又はそしゃく機能障がい	810	811	815	833
肢体不自由	49,982	49,415	48,788	48,018
内部機能障がい	23,784	24,159	24,678	25,011
合計	84,412	84,221	84,049	83,564



ひょう しんたいしょうがいしゃ てちょうしょじしゃ ねんれいべつすい
【表3】 身体障害者手帳所持者の年齢別推移

がつかつじてん
 (3月末時点)

	ねん ど 2013年度	ねん ど 2014年度	ねん ど 2015年度	ねん ど 2016年度
さい み まん 18歳未満	1,607	1,596	1,493	1,484
さい み まん 18～65歳未満	26,853	25,868	23,055	22,387
さい い じょう 65歳以上	55,952	56,757	59,501	59,693

りょういく てちょう
◆療育手帳

ひょう 【表4】 のとおり、どの程度も年々増加しており、特にB－（軽度）の所持者数が増えています。

また、【表5】 のとおり年齢別では、18歳以上の所持者数が年々増えています。

ひょう りょういく てちょう しょう てい ど べつすい い
【表4】 療育手帳の障がい程度別推移

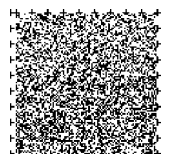
がつかつじてん
 (3月末時点)

	ねん ど 2013年度	ねん ど 2014年度	ねん ど 2015年度	ねん ど 2016年度
えー じゅう ど A（重度）	5,467	5,557	5,622	5,788
びー ちゅう ど B（中度）	3,578	3,641	3,784	3,836
びーばー けい ど B－（軽度）	6,132	6,712	7,260	7,751
ごうけい 合計	15,177	15,910	16,666	17,375

ひょう りょういく てちょうしょじしゃ ねんれいべつすい い
【表5】 療育手帳所持者の年齢別推移

がつかつじてん
 (3月末時点)

	ねん ど 2013年度	ねん ど 2014年度	ねん ど 2015年度	ねん ど 2016年度
さい み まん 18歳未満	4,696	4,862	4,698	4,757
さい い じょう 18歳以上	10,481	11,048	11,968	12,618



◆**精神障害者保健福祉手帳**

身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がいの手帳所持者のうち、この4年間でもっとも増加してきているのが、精神障がいです。【表6】のとおり、2013年度と2016年度を比較すると3千人以上増えていることがわかります。

【表6】精神障害者保健福祉手帳の障がい程度別推移

(3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1級	1,331	1,390	1,399	1,365
2級	11,615	12,228	12,652	13,079
3級	8,473	9,266	9,664	10,344
合計	21,419	22,884	23,715	24,788

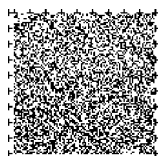
◆**札幌市の難病患者数(特定医療費(指定難病)受給者証所持者数)**

2013年(平成25年)4月に施行された障害者総合支援法では、制度の谷間のない支援を行うため、障がいのある人の範囲に、新たに難病患者が加わりました。

これにより、症状の変動により身体障害者手帳を取得することができなかった人も、障害福祉サービス等を利用できるようになりました。

2017年(平成29年)4月1日現在で358疾病が障害福祉サービス等の対象となっています。

また、2015年(平成27年)1月に難病の患者に対する医療等に関する法律が施行され、医療費助成の対象となる難病が拡大され



ました。2017年（平成29年）4月1日現在で330疾病が医療費助成の対象となっています。

【表7】 特定医療費（指定難病）受給者証所持者数（3月末時点）

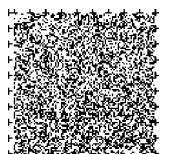
2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
16,664	16,916	20,587	21,564

※出展：札幌市衛生年報より引用

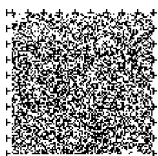
2 さっぽろ障がい者プランの振り返り

2015年（平成27年）3月に改定したさっぽろ障がい者プランでは、「障がいのある人もない人も、市民誰もが互いに人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の実現」を基本理念に、障がいのある人が地域で安心して生活していくことができるよう、障がい者施策の充実に向け、11の施策分野を設定し、取組を進めてきました。各分野の主な事業について、さっぽろ障がい者プランの進捗状況を振り返ります。

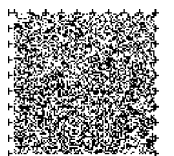
分野1	理解促進
重点取組名	2016年（平成28年）度実績
障害者週間記念事業の実施 ⇒183ページ参照	<ul style="list-style-type: none"> ●街頭PRとして、各区役所の周辺にて、計6,000個の普及啓発品を配布 ●視覚障がいのある人等による、あんま・マッサージ治療の無料奉仕を92名に実施 ●市役所・区役所・地下鉄各駅等に啓発ポスターを掲示



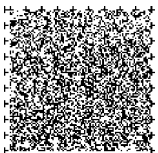
重点取組名 じゅうてんとりくみめい	2016年(平成28年)度実績 ねん へいせい ねん ど じっせき											
しょう どう じ しゃ 障がい当事者の こう し は けん 講師派遣	しょう しゃこう し ようせいこう ぎ しゅうりょうせい めい ●障がい者講師養成講座修了生:17名 こう し は けんかいすう かい ●講師派遣回数:106回 こう し は けん にんずう めい の にんずう ●講師派遣人数:135名(延べ人数) ちょうこうしゃすう めい の にんずう ●聴講者数:6,323名(延べ人数) さんこう は けんさき かいすう うちわけ 【参考】派遣先と回数の内訳 <table border="1" data-bbox="624 667 1390 813"> <thead> <tr> <th data-bbox="624 667 815 741">がっこう 学校</th> <th data-bbox="821 667 1007 741">きぎょう 企業</th> <th data-bbox="1013 667 1198 741">ちいき 地域</th> <th data-bbox="1204 667 1390 741">そのた その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="624 745 815 813">68</td> <td data-bbox="821 745 1007 813">12</td> <td data-bbox="1013 745 1198 813">10</td> <td data-bbox="1204 745 1390 813">16</td> </tr> </tbody> </table>				がっこう 学校	きぎょう 企業	ちいき 地域	そのた その他	68	12	10	16
がっこう 学校	きぎょう 企業	ちいき 地域	そのた その他									
68	12	10	16									



ぶん や せいかつ し えん 分野 2 生活支援	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
そうだん し えん じぎょう 相談支援事業の じゅうじつ 充実	● 障がい者相談支援事業 ・市内20か所で実施 ・2016年度相談支援件数:76,533件 ・2016年度末登録者数:6,337人 ● 障がい児等療育支援事業 ・市内5か所で実施 ・訪問29件、外来117件 ・施設支援434件
じゅうどしゅう 重度障がいのある ひと たい し えん 人に対する支援 ぱーそなるあし (パーソナルアシ す たん す じぎょう スタンス事業) ⇒65～66ページ さんしょう 参照	● 利用者数:70名 ● 介助登録者数:515名 ● 移行時間(※)(1人あたり平均)172時間 /月 ● 利用時間(1人あたり平均)223時間/月 ※移行時間とは……支給決定を受けた 重度 訪問介護の時間をパーソナルアシスタンス 事業に移行した時間のことです。

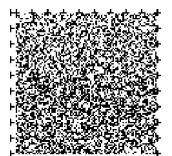


ぶんや 分野3 ほけん いりょう 保健・医療	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
にゅうよう じけんこうしん さ 乳幼児健康診査	<ul style="list-style-type: none"> ● 4か月児健診 <small>じゅしんしゃすう じつ</small> 受診者数 実14,301人(延15,668人) ● 1歳6か月児健診 <small>じゅしんしゃすう じつ</small> 受診者数 実13,983人(延15,379人) ● 3歳児健診 <small>じゅしんしゃすう じつ</small> 受診者数 実13,740人(延14,148人) ● 5歳児健診 <small>じゅしんしゃすう じつ</small> 受診者数 実 618人(延 619人)
じりつしえん いりょう 自立支援医療	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成医療(⇒183ページ参照) <small>きゅう ふ けんすう</small> 給付件数: 1,656件 ● 更生医療(⇒183ページ参照) <small>きゅう ふ けんすう</small> 給付件数: 52,206件 ● 精神通院医療(⇒183ページ参照) <small>きゅう ふ けんすう</small> 給付件数: 786,401件



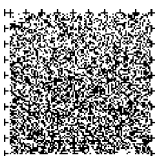
ぶん や せいかつかんきょう 分野4 生活環境	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
ほ どう ば り あ ふ り ー 歩道バリアフリー せい び じ ぎ ょう 整備事業	●重点整備地区(⇒184ページ参照)の生活 かんれんけいろ えんちやうやく きろめ-とる ほ どう ば り 関連経路として、延長約8kmの歩道バリ あ ふ り ー こ う じ じ っ し アフリー工事を実施
ち か て つ し で ん 地下鉄・市電にお あんぜんたいさく ける安全対策	●東豊線に可動式ホーム柵の設置作業を行 い、地下鉄3線全駅への設置が完了 ●市電の資生館小学校前停留場のバリア ふ り ー か せい び じ っ し フリー化整備を実施

ぶん や きやういく ほったつ し えん 分野5 教育・発達支援	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
しょう じ ほいくじゅんかい 障がい児保育巡回 し どう 指導	●認可保育所293園(認定こども園含む)、 ち いきがた ほいく じぎやうしよ えんちやう しょう じ 地域型保育事業所78園中、障がい児の うけい えん めい 受入れは168園348名 ●巡回指導回数:340回
ひとりひとり まな 一人一人が学び そだ きやういくてき 育つための教育的 し えん じゅうじつ 支援の充実	●学びのサポーター(⇒184ページ参照) かつようこうすう こう 活用校数:282校 ●支援対象児童生徒数:1,306人



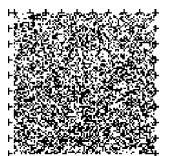
ぶんや 分野6 こよう しゅうろう 雇用・就労	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
しゅうろうそうだん し えんたいせい 就労相談支援体制 の充実(障がい者 就業・生活相談支 援事業)	<ul style="list-style-type: none"> ● いたく じぎょうしょ 委託事業所: 4 か所 ● じょぶ さぽーたー ジョブサポーター(⇒184ページ参照): めいはいち 7名配置(1名増) ● そうだんけんすう 相談件数: 23,333 件 ● しゅうしょく むす 就職に結びついた件数: 150 人
せいひん はんろかくだい 製品の販路拡大 し えん 支援	<ul style="list-style-type: none"> ● げんき しょっぷ 元気ショップ(⇒185ページ参照) うりあげ 売上: 72,096,348 円 らいきゃくすう 来客数: 129,192 人 ● げんき しょっぷ 元気ショップいこ～る(⇒185ページ さんしょう 参照) うりあげ 売上: 26,384,844 円 らいきゃくすう 来客数: 33,111 人

ぶんや 分野7 じょうほう こみゆにけーしょん 情報・コミュニケーション	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
てんじ おんせい 点字・音声による じょうほうていきょう 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ● てんじ 点字さっぽろ・こえ 声のさっぽろ(デイジー ばん 版)の発行 りようしゃすう 利用者数: 690 人(延5,253 人)



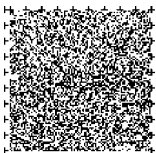
ぶんや すぼーつぶんか 分野8 スポーツ・文化	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
しょう しゃすぼーつ 障がい者スポーツ しんこう の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● しょう しゃすぼーつ たいけんかい かいさい 障がい者スポーツ体験会の開催 らいじょうしゃすう じん 来場者数:200人 ● ばらりんぴっく ぎきょうしつ かいさい パラリンピック競技教室の開催 さんかしゃすう じん 参加者数:29人

ぶんや あんぜん あんしん 分野9 安全・安心	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
さいがいじ きんきゅうけい 災害時の緊急受入 かん かんけいき れに関する関係機 かん きょうてい 関との協定	<ul style="list-style-type: none"> ● さつぼろし きょうてい ていけつ だんたい か 札幌市と協定を締結している、団体の加 めいしせつ ごうどう だいきほひなんくんれん じっし 盟施設と合同の大規模避難訓練を実施す るとともに、くんれんご かだい ちゅうしゅつ ほんせい 訓練後の課題の抽出・反省を おこな ひなんくんれん かい じっし 行う「避難訓練ふりかえり会」を実施
きぎょう れんけい 企業などとの連携 すいしん 推進	<ul style="list-style-type: none"> ● じぎょうしゃ く つうほう けんすう けん 事業者が区に通報した件数:8件 ● じぎょうしゃ けいさつしょ しょうぼうしょ つうほう けんすう 事業者が警察署・消防署に通報した件数: 10件 ● じぎょうしゃ ちいきかんけいしゃ れんけい たいおう 事業者が地域関係者と連携し対応した けんすう けん 件数:6件 ● じぎょうしゃ さいほうもん きんきゅうれんらくさき れんらくとう 事業者の再訪問や緊急連絡先への連絡等 かんけつ じれい けん で完結した事例:15件



ぶん や さ べ つ か い し ょ う け ん り ょ う ご 分野10 差別の解消・権利擁護	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
しょうがいしゃ さ べ つ か い し ょ う ほう 障害者差別解消法 えんかつ し こ う の円滑な施行	<ul style="list-style-type: none"> ●「障害者差別解消法を踏まえた札幌市の対応方針」及び「共生社会の実現」に向けた札幌市職員の接遇要領」を作成し、職員研修等の取組を推進している。
けん り ょ う ご かか 権利擁護に係る そうだん し えん じゅうじつ 相談支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者あんしん相談運営事業(⇒149ページ参照) そうだんけんすう けん 相談件数:2,496件 ●成年後見制度利用支援事業(⇒139ページ参照) じ さんし ょ う 市長申立件数:14件

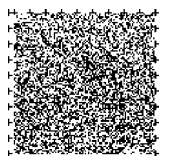
ぶん や ぎ ょ う せ い さ - び す はいりよ 分野11 行政サービスにおける配慮	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	ねん へいせい ねん ど じっせき 2016年(平成28年)度実績
し ょ く い ん た い し ょ う 職員に対する障が し ゃ り か い そ く し ん い者理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●札幌市職員に対し、職員用ホームページ上に特設ページを設けるなど、障害者差別解消法に関する情報を発信するとともに、障がい種別に応じた配慮例等を周知している ●全部局において職場研修の実施 じっし かいすう かい じゅうこうしゃすう じん 実施回数:150回 受講者数:5,529人



2016年11月から12月にかけて行った、障がい児者実態等調査(⇒154ページ参照)の結果と、2013年度に行った同じ調査の主な結果を比較し、札幌市の取組の効果について振り返ります。

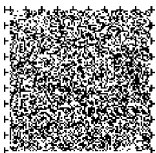
【調査対象】

- ・ 障がいのある人(6,000人)
- 18歳以上の身体障がい・知的障がい・精神障がいのある人
- ・ 障がいのある子ども(1,000人)
- 18歳未満の身体障がい・知的障がい・精神障がいのある人
- ・ 難病患者(500人)
- 難病患者団体の会員の人
- ・ 施設入所者
- 主に身体障がいのある人向けの施設または主に知的障がいのある人向けの施設に入所している人
- ・ 精神科病院入院患者
- 1年以上、精神科病院に入院している人



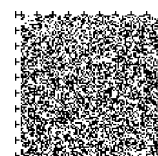
しょう ひと たい しみんりかい 障がいのある人に対する市民理解		
しょう ひと たい あんけーとちようさ ●障がいのある人に対するアンケート調査		
	ねん ちようさ 2013年度調査	ねん ちようさ 2016年度調査
ふか おも 深まっていると思う	8.8%	6.8%
ふか おも まあまあ深まってい ると思う	20.5%	19.8%
しょう こ ほごしゃ たい あんけーとちようさ ●障がいのある子ども(保護者)に対するアンケート調査		
	ねん ちようさ 2013年度調査	ねん ちようさ 2016年度調査
ふか おも 深まっていると思う	2.7%	2.1%
ふか おも まあまあ深まってい ると思う	16.3%	12.2%
なんびようかんじゃ たい あんけーとちようさ ●難病患者に対するアンケート調査		
	ねん ちようさ 2013年度調査	ねん ちようさ 2016年度調査
ふか おも 深まっていると思う	5.3%	3.7%
ふか おも まあまあ深まってい ると思う	21.2%	15.7%

しょう ひと たい しみんりかい ちようさ ねん
障がいのある人に対する市民理解では、どの調査でも2013年
どちようさ ひく しょう ひと たい りかいそくしん
度調査より低くなっており、障がいのある人に対する理解促進が
すす けっか
進んでいない結果となりました。



<small>しょう</small> <small>ひと</small> <small>きぼう</small> <small>せいかつ</small> 障がいのある人が希望する生活のためにあればいいこと		
<small>しょう</small> <small>ひと</small> <small>たい</small> <small>あんけーとちようさ</small> ●障がいのある人に対するアンケート調査		
	<small>ねん</small> <small>ど</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> 2013年度調査	<small>ねん</small> <small>ど</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> 2016年度調査
<small>こう</small> <small>れい</small> <small>あ</small> <small>ん</small> <small>しん</small> 高齢になっても安心 <small>せいかつ</small> して生活できること	45.7%	54.4%
<small>こ</small> <small>ま</small> <small>そ</small> <small>う</small> <small>だ</small> <small>ん</small> 困ったときに相談で <small>お</small> <small>し</small> <small>ば</small> きて教えてくれる場 <small>し</small> <small>よ</small> 所	36.9%	39.3%
<small>しょう</small> <small>こ</small> <small>ほ</small> <small>ご</small> <small>しゃ</small> <small>たい</small> <small>あん</small> <small>けー</small> <small>と</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> ●障がいのある子ども(保護者)に対するアンケート調査		
	<small>ねん</small> <small>ど</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> 2013年度調査	<small>ねん</small> <small>ど</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> 2016年度調査
<small>こう</small> <small>れい</small> <small>あ</small> <small>ん</small> <small>しん</small> 高齢になっても安心 <small>せいかつ</small> して生活できること	38.0%	31.3%
<small>こ</small> <small>ま</small> <small>そ</small> <small>う</small> <small>だ</small> <small>ん</small> 困ったときに相談で <small>お</small> <small>し</small> <small>ば</small> きて教えてくれる場 <small>し</small> <small>よ</small> 所	34.9%	31.3%
<small>なん</small> <small>び</small> <small>よう</small> <small>かん</small> <small>じゃ</small> <small>たい</small> <small>あん</small> <small>けー</small> <small>と</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> ●難病患者に対するアンケート調査		
	<small>ねん</small> <small>ど</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> 2013年度調査	<small>ねん</small> <small>ど</small> <small>ちよう</small> <small>さ</small> 2016年度調査
<small>こう</small> <small>れい</small> <small>あ</small> <small>ん</small> <small>しん</small> 高齢になっても安心 <small>せいかつ</small> して生活できること	52.7%	47.2%
<small>こ</small> <small>ま</small> <small>そ</small> <small>う</small> <small>だ</small> <small>ん</small> 困ったときに相談で <small>お</small> <small>し</small> <small>ば</small> きて教えてくれる場 <small>し</small> <small>よ</small> 所	39.8%	32.4%

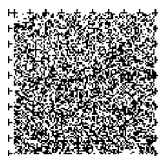
とく しょう ひと なん び よう かん じゃ こう れい
 特に、障がいのある人と難病患者が、高齢
とき せいかつ ふ あん か か
 になった時の生活に不安を抱えていること
なん び よう かん じゃ ふ く しょう ひと
 がわかり、難病患者を含む障がいのある人の



高齢化への対応が求められています。

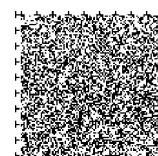
また、どの調査でも依然として30～40%の人が困ったときに相談できる場所を求めており、生活する上でのニーズが多様化・複雑化していることがうかがえます。

退所・退院に向けての問題点や必要な生活支援		
●主に身体障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
夜間や緊急時の支援に不安	34.3%	74.0%
服薬管理を含めた医療ケアに不安	33.6%	38.0%
●主に知的障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
夜間や緊急時の支援に不安	42.3%	51.1%
服薬管理を含めた医療ケアに不安	33.6%	24.3%
●精神科病院入院患者		
	2013年度調査	2016年度調査
退院に向けての生活支援として訪問看護サービスが必要	52.7%	47.2%



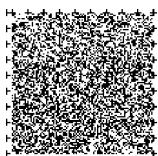
施設に入所している人は、夜間や緊急時の支援と服薬を含めた医療ケアに不安を感じており、精神科病院入院患者も訪問看護サービスを求めていることがわかり、施設に入所している人や精神科病院入院患者の地域に当たっては、地域生活を支えるための医療を含むサービス提供基盤の一層の充実が必要となります。

施設に入所している人の年齢と障害支援区分		
●主に身体障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
年齢	2013年度調査	2016年度調査
20歳未満	0%	8.0%
20代	4.9%	2.4%
30代	12.4%	16.0%
40代	14.1%	12.0%
50代	19.8%	18.4%
60～64歳	23.3%	13.2%
65歳以上	25.4%	30.0%
障害支援区分	2013年度調査	2016年度調査
区分1	0%	0%
区分2	0%	0%
区分3	6.7%	5.2%
区分4	20.1%	15.6%
区分5	29.7%	27.6%
区分6	43.5%	51.6%



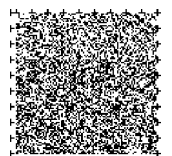
●主に知的障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
ねんれい 年齢	ねん どころさ 2013年度調査	ねん どころさ 2016年度調査
さい み まん 20歳未満	0%	0.2%
だい 20代	16.6%	14.6%
だい 30代	27.2%	24.1%
だい 40代	23.3%	23.7%
だい 50代	14.0%	14.8%
さい 60～64歳	5.4%	7.3%
さい い じょう 65歳以上	12.7%	15.4%
しょうがい し えん く ぶん 障害支援区分	ねん どころさ 2013年度調査	ねん どころさ 2016年度調査
く ぶん 区分1	0%	0%
く ぶん 区分2	1.8%	1.0%
く ぶん 区分3	7.4%	6.7%
く ぶん 区分4	18.8%	16.8%
く ぶん 区分5	25.2%	23.9%
く ぶん 区分6	46.8%	51.5%

主に身体障がいのある人が入所する施設、主に知的障がいのある人が入所する施設ともに、年齢が65歳以上の人の割合が増加しており、障害支援区分は区分6の人が増加していることから、施設に入所している障がいのある人は高齢化・重度化していることがわかります。



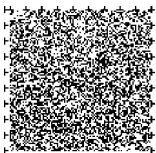
<small>こんご きょういく りょういく</small> 今後の教育や療育(⇒185ページ参照)について力を入れるべきこと		
<small>しょう</small> ●障がいのある子ども(保護者)に対するアンケート調査		
	<small>ねん ども ちよう さ</small> 2013年度調査	<small>ねん ども ちよう さ</small> 2016年度調査
<small>しょう おう</small> 障がいに応じた <small>きょういく ないよう じゅうじつ</small> 教育内容の充実	45.9%	42.3%
<small>ぎ む きょういく しゅうりょう ごと</small> 義務教育終了後の <small>しんろ しゅうしょく さき</small> 進路(就職先)の <small>かく ほ</small> 確保	49.0%	41.8%
<small>つうじょう がつきゅう ほいく しょ</small> 通常の学級、保育所、 <small>ようちえん うけい</small> 幼稚園への受入れ <small>じゅうじつ</small> の充実	33.1%	30.5%

こんご きょういく りょういく
 今後の教育や療育について力を入れるべきこととして、ぎ む きょう
いく しゅうりょう ごと
 義務教育終了後の進路(就職先)の確保は改善傾向にあるものの、依然
たか わりあい すい い
 として高い割合で推移しており、ほかの項目も横ばいであること
しょう
 から、障がいのある子どもへの療育や教育に係る支援強化につい
けいぞく か だい
 ては、継続した課題といえます。



差別を受けたり、いやな思いをしたことがあるか		
●障がいのある人に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
ある	49.5%	46.6%
●障がいのある子ども(保護者)に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
ある	69.0%	61.2%
●難病患者に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
ある	34.5%	35.2%

差別を受けたり、嫌な思いをしたことがある人の割合はどの調査でも高くなっており、「いやなことを言われた」「じろじろ見られた」という人が多くなっています。2016年(平成28年)4月1日に施行された障害者差別解消法に基づく取組を一層推進する必要があります。



札幌市では、これまでも、さっぽろ障がい者プランに基づき、着実に施策を進め、法律が定める障害福祉サービス等も含めて、障がい福祉施策全般の充実を進めてきました。

しかしながら、札幌市が実施したアンケート調査結果にもあるとおり、障がいのある人、障がいのある子ども、その家族には、いまだに多くの生活のしづらさが残っています。

こうした課題に対応していくためには、国による法律や制度の改善だけでなく、札幌市の障がい福祉施策を組み合わせるなど、工夫して取り組むとともに、障がい福祉施策と、他部局の関連施策との連携も更に深めていく必要があります。

また、こうした施策の充実等においては、障がいのある本人の意見を最大限尊重して行っていくことが重要です。

